令和５年度　授業改善推進プラン

東久留米市立第三小学校　第4学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 （数値等で具体的に示す）	具体的な授業改善策及び目標値 （数値等で具体的に示す）
国語	・自分の思考や意見を書いたり話したりして表現することに課題が見られる児童は５割程度である。 ・友達の考えを聞いて、自分の考えを深めようという経験が少なく、自分の考えを発表することに課題が見られる児童は４割程度である。	・自分の考えや振り返りを書く時間を確保し、机間指導やコメントで励ましやアドバイスを積み重ね、書くことに自信をもたせて、７割以上が自信をもてるようにする。 ・考えを交流する学習活動を多く設定して、共通点や相違点に気を付けて発表するための話型を活用し、定着を図り、６割以上が考えを深めることができるようにする。
算数	・四則計算の定着に課題が見られる。１学期に実施した東京ベーシックドリルでは、２桁をかける乗法の計算の正答率が４６％であった。 ・三角定規やコンパス、分度器などを使用し、正確に作図することに課題が見られる。作図に関しては正答率が４９％であった。	・前学年に戻って計算問題に取り組む機会を設け定着を図り、2学期末に実施予定の東京ベーシックドリルBでは、正答率７割を目指す。 ・三角定規やコンパス、分度器などを正しく取り扱えるよう、作図する場面を多く取り入れ、正答率７割を目指す。
理科	・観察・実験の予想の際に、生活経験や学習経験から根拠を書くことに課題が見られる児童は４割程度である。 ・考察を実験結果をもとに書くことに課題が見られる児童は４割程度である。	・既習の内容を思い出すよう声を掛けたり、よく考えている児童を手本としてして例示したりする。生活経験から書けるように声掛けをしていく。６割以上が考えを深めることができるようにする。 ・考察は、問題を確認してから書き始めるようにすることで、何について書けばよいかを明確にする。７割以上が書けるようにする。
社会	・写真やグラフなどから情報を読み取り、事実を見付けることに課題が見られる児童は６割程度である。 ・疑問詞などを使いながら、自ら問いを深め、学習問題を作成できる児童が５割ほどである。	・日々の授業の中で、写真やグラフの情報に触れさせ、着目する視点に慣れさせる。次の学年に上がるまでに７割以上の児童が正しい情報処理をできるようにする。 ・学習問題を作る機会を増やし、どのような問いが深い問いなのかを理解させる。次の学年に上がるまでに８割以上の児童が自分なりの問いを立てられるようにする。